

毎日の生活の中で、関わり方の積み重ねにより育まることが出来る「生きるための力」、
 幼児期に育むべき「8つの力」と、それを引き出す関わり方を紹介します。

- 親に依存して生きることから「自立」の世界へ！
 甘えることができて子どももイ伸びる！ 「自分の足で立つ力」
- 生きていく上で必要「自分で考え、決断する力」
 言葉の発達とともに、日々の会話の積み重ねで養っていく 「考える力」
 幼児期から場数が大切！ 年齢に応じて質問で養っていく 「決断力」
- 良好な人間関係を築く上で大切な能力
 コミュニケーションの要！ 相手の気持ちを思いやる 「共感力」
 自分の主張を一部見せ、相手と譲り合う 「折り合いをつける力」
- 学校や社会で成功・活躍する鍵！
 心の筋肉！ 困難に負けぬ力 「レジリエンス」
 才能や知能指数よりも大事！ やり抜く力 「グリット」
 IQよりも学力に景影響大！ 今と我慢する力 「セルフコントロール力」

10か月の

R4.1.14



「伝えたいこと
 くらいはしつづけて
 再認識!!!」

子どもは「遊び」を通して多くのことを学んでいます。

- 運動スキル... 総合的なスキルから、手指の細かい局所的な運動スキルが身につきます。
 - 鬼考力... 「～どうしたらいいだろう？」といった推測力や論理的思考力。また問題解決するためのアイデアも。
 - 言語力... 相手に伝えるために工夫することで、表現力や言語力が身につきます。
 - 自制心... 二歩以上すると相手を傷つけてしまうことと自らの衝動を制御する感覚を学びます。
 - 想像力... イメージが膨らみ、形と色で想像力が豊かに育ちます。
 - 社会性... ルールを覚え、相手を思いやり、協力し合い、と社会で必要とされる姿勢を身につけます。
- 人の最大限の力を発揮できる「フロー状態」... 遊びを通して自発的に深く遊びに没頭する、リフレッシュし集中力を。

「遊び」の正しいところは、こうしてスキルや能力を、習い事のように大人の指導によって学ぶのではなく

自発的に楽しむから身につけてしまえることです。

「遊び上手」へ導くヒント

- ① 場と時間の確保
- ② 「仕事モード」を横に置く
- ③ 五感を活用する
- ④ 応用の利く玩具を与える
- ⑤ 想像力を刺激する言葉がけをする
- ⑥ 普段の想像力を豊かにする働きかけをする



生き生きと「自分らしさ」を伸ばすように
 (CARTF=いいポイント)

- ・自分の気持ちを大切にすること
- ・自分の気持ちから行動していることをほめてあげる
- ・成功も失敗も体験することの大切さを伝える
- ・子どもの試行錯誤を先回りして援助しない、見守る忍耐をもつ

Q こいつなことをいませいか？

- ・命令、指図
- ・禁止
- ・容認できない
- ・努力の強要



たとえば些細なことでも、自らの行動の積み重ねが、「「自信」や「生きる力」を育てます。

わかってはいるけど、つい... / 知らずとも大丈夫!! (知っているだけ違う!)